

一般社団法人日本透析医学会 (JSDT) の新規公式欧文誌としての Renal Replacement Therapy (RRT) 誌の発刊の経緯と現状報告および今後の展望

重松 隆

和歌山県立医科大学腎臓内科学講座

key words : 新規欧文誌, 日本透析医学会, BioMed Central 社, Web-Journal, Creative Commons-BY

要 旨

一般社団法人日本透析医学会 (The Japanese Society of Dialysis Therapy; JSDT) は、新規の公式欧文誌である『Renal Replacement Therapy』(RRT) 誌を Springer-Nature 社に属する BioMed Central (BMC) 社から 2015 年の 11 月 24 日に創刊した。今回、新たに 3 番目の公式雑誌を創刊するに至った背景と、実際の創刊作業について紹介する。それにより、RRT 誌の立ち上げのエピソードを記憶として残すとともに、出版業界で起こっている大きな変革と将来展望を考え、今後の公式雑誌、ひいては学会のあり方について考えてみたい。

1 はじめに

一般社団法人日本透析医学会 (The Japanese Society of Dialysis Therapy; JSDT) は、日本透析医学会雑誌と『Therapeutic Apheresis and Dialysis』(TAD) 誌に加え、新規の公式欧文誌である『Renal Replacement Therapy』誌を 2015 年の 11 月 24 日に創刊した^{‡1)}。今回、この新規雑誌の創刊に至る過程と、現状報告ならびに今後の見通しと戦略について述べる。

2 一般社団法人日本透析医学会における公式雑誌の歩み

2-1 公式和文誌

JSDT は学会の変遷とともに、人工透析研究会会誌 (昭和 43 (1968) 年) の創刊から日本透析療法学会雑誌

(昭和 60 (1985) 年) を経て、日本透析医学会雑誌 (和文誌) として平成 6 (1994) 年から出版を続けている。和文における症例報告・原著論文・学会報告など科学的な発表とともに、学会による情報発信の担い手として今日まで続いている。しかしながら、昨今の研究成果の英語での発信の流れと、臨床研究の倫理面や利益相反 (conflict interest; CO) の厳正化から変革を迫られてきており、今後は和文誌運営委員会 (熊谷裕生委員長) を中心に教育的な観点より飛躍していくことが期待されている^{‡2)}。

2-2 公式欧文誌

日本の慢性透析医療はその臨床成績の良さから世界中から注目されている。わが国の診療ガイドラインや統計調査委員会報告 (わが国における慢性透析の現況シリーズ) などは世界から注目されている。しかしながら、国際的に英語で発信するという点は呆れるほど遅れていたのが実情である。この点は日本透析医学会も認識しており、英文の Official Journal 創刊を目指して編集委員会の中に欧文誌を検討する部門も設置していた。この系譜が今日の欧文誌運営委員会につながっている。

この学会の問題意識と当時の透析医学会理事長秋澤忠男先生の尽力により、Wiley-Blackwell 社が出版を請け負っていた 1997 年 2 月創刊の『Therapeutic Apheresis』(TA) という雑誌に、日本透析医学会が 2003 年 1 月より関与できることになる。現在でも Official Jour-

nalとなっている『Therapeutic Apheresis and Dialysis』(TAD)誌の始まりである。すなわち、International Society For Apheresis (ISFA)と一般社団法人日本アフゼリシス学会—Japanese Society for Apheresis (JSFA)にJSDTが加わる形で3学会の公式雑誌としてTAD誌へと発展を遂げた。すでにこの時点でPubMedやMEDLINE, SCOPUSにIndex化されており、11年を費やした後に2008年からは1.0以上のImpact Factor (IF)も獲得している。しかし未だ昔の呼称を引きずって欧文誌と称し英文誌とは称していない。

3 Renal Replacement Therapy 誌創刊までの背景

3-1 JSDTによる新規の公式欧文誌創刊の意思決定

一般社団法人日本透析学会 (JSDT) は、雑誌の発行の契約といわゆる著作権 (copy right) に関して無知であったことは否めない事実である。JSDTはTAD誌発行費用を3学会で会員数に応じて支払うことになる。また発行母体はあくまでもISFAの公式雑誌である。これは考えてみれば契約条件としては理解できる契約であり、ISFAとJSFAからすれば、後から強引に加わったJSDTに対する当然の対応であったと考えられる。しかしながら圧倒的に会員数の多いJSDTからすると、TAD誌発行費用の大半を負担しながら、各出版論文の著作権は有しないという不平等条約に見える。この不平等感は、JSDTが作成したJSDTガイドライン論文がJSDTは自由に使用できず、ISFAへ有償で著作権利用費用を支払うという出来事で頂点に達する。この思いがJSDT独自の英文Official Journalの創刊意思を芽生えさせることになった。

3-2 JSDTによる新規の公式欧文誌創刊作業開始まで

この創刊意思を最初に受け止め理事会から委任されたのが、JSDTきっての国際派である深川雅史理事であった。著者 (重松隆) も委員の一人として参画していた。発刊作業を委託する出版社の選定作業まで検討

されたが、残念ながら実現には至らなかった。すでに確立しているTADと新規雑誌の住み分けに対する考え方が決まっていなかったことが大きいと考えている。「重松隆」が2014年7月に編集委員長を拝命した頃には、当時の新田孝作理事長を始め、JSDT理事会内では英文Official Journalの創刊への理解・費用の応分などの意思統一ができていた。「重松隆」は日本腎臓学会の公式英文誌で右肩上がりに成長を続けていたClin. Exp. Nephrol (CEN)のreviewerからAssociate Editorとして編集業務の経験を積んでいた。以上より、なすべきことは理解していたので早速JSDTの新規欧文誌を創刊すべく活動を開始した。

4 新規の公式欧文誌創刊前の膨大な作業

4-1 欧文誌運営委員会開設

新規の公式欧文誌の創刊作業の対応部署として2015年に欧文誌運営委員会として再編し、TADと新規欧文誌の担当部署とした。以後は編集委員長を中心として、欧文誌運営委員会 (表1) が理事会の承認のもとで進めていくことになった。

4-2 新規欧文誌のフレームコンセプトの決定

腎透析関連の有力学会のみならず、すべての研究論文公表にITの波が押し寄せていることは認識していた。特にPLos OneやScientific Reportsという雑誌のWeb Journalという出版形態と、Open Journalというビジネスモデルは医学領域にも衝撃を与えていた。

そこで欧文誌運営委員会にて、以下のコンセプトでOfficial Journalを目指すことを決定した。

- ① 出版速度と出版費用の節約からWeb Journalを採用する。
- ② 動画・カラー・音声の投稿を可能にするためにも、Web Journalを採用する。
- ③ Open Journal化 (Full Paperの獲得は無料) で著作権は著者に帰属し、著作権としてはCC-BY (Cre-

表1 一般社団法人日本透析医学会の編集委員会ならびに欧文誌運営委員会

編集委員会						
重松 隆 稲葉雅章						
欧文誌運営委員会						
重松 隆	猪阪善隆	伊藤恭彦	稲葉雅章	菅野義彦	倉賀野隆裕	小松康宏
鶴屋和彦	中元秀友	西 慎一	花房規男	林 晃一	峰島三千男	森石みさき
八木澤隆						

ative Common License-BY) (改変を含め図表の引用は科学的利用はもちろんのこと、商業利用も許諾なく自由に可能)を採用する。

- ④ 投稿料はもちろんのこと、掲載料も Open Journal 化費用の著者負担無しとする。
- ⑤ 世界言語である完全英語化を貫く。

この決定は、遅ればせながらの新規雑誌に投稿してもらい、掲載論文の図表を含めた世界への頒布を促進し、新規雑誌の価値と評価を高めるには当然との発想があった。しかしながら 2015 年前半では、この出版形態では従来の出版社の著作権ビジネスモデルに真っ向から挑む形となるために、有力学会の Officail Journal ではあまりに革新的で時期尚早とのことで採用されていない出版モデルであった。

JSDT 理事会では Web Journal 化は容易に了承された。著作権と掲載費用についてはかなりの議論があった。学会としてはガイドラインや学会報告などの著作権を学会が保持し、再利用の自由度を高めたいとの強い希望があった。加えて費用負担も全額学会負担とすると、出版費用が莫大になる可能性があるため一定の歯止めを掛けるべきであるとの条件付きで、理事会にて創刊の話を進めていく承認を得た。

4-3 新規欧文誌創刊業務の出版委託先の決定

(1) 候補社の選定過程

すでに深川雅史理事が一旦は出版委託先の選定作業を行っていたが、残念ながら最終決定には至っていなかった。その方策を受け継ぎつつ、出版委託先の選定を開始した。

委員長としては可能な限りわが国の出版業界から採用を選択したいと考え、国内の複数 (12 社) の医学系出版社に、上記の①~⑤の条件を提示しつつ、Web 上での投稿と査読・出版システム構築を依頼したが、返事をもらえない会社もある中で、わが国の 1 社を除きすべての会社が辞退する羽目に陥った。その理由として、Web 出版の経験がない・投稿と査読および出版システム構築ができない・著作権を放棄できない、などが理由であった。わが国の 1 社も外国出版社とのジョイントで応募するとのことであったため、医学・生物系の有力出版社で日本支部を有する 6 社に応募を依頼した。最終的にはすべて海外の 3 社となり、1 社は本邦の会社とのジョイントとしての応募であった。

(2) BioMed Central (BMC) 社との交渉

欧文誌運営委員会メンバーの参加にてプレゼンテーションが行われ、議論の後に投票にて 1 社を新規欧文誌創刊業務の出版委託先の優先交渉先として決定した。それは BioMed Central 社で最も知名度の低い会社であった。BMC 社は 2000 年に英国にて設立され、2008 年にシュプリングー傘下に入り、日本では 2011 年にオープン・アクセス出版事業をスタートしていた新しい会社であった。特に出版社にとっては最も障壁が高いと思われていた、Open Journal で著作権は著者に帰属し、著作権としては CC-BY³⁾ を、出版原則として掲げる会社であることが判明する。

交渉過程すなわち契約書締結に向けて交渉を始めたところ、「重松隆」にとってはかなり厳しい交渉になった。その理由はきわめて単純である。契約書や付帯条件・出版料金の値段交渉・契約解除等の条件など、すべて英語の世界であったからである。BMC 社の石井奈都氏にはプレゼンテーションのレベルから、値段交渉における譲歩までもらい、今日まで大変お世話になっている。また英語契約書のため、学会事務局から紹介してもらった小川綜合法律事務所の弁護士の有本真由先生には大変注意深いありがたいコメントを多数もらえた。2015 年 11 月 3 日に、JSDT の当時の新田孝作理事長と BioMed Central Ltd. の Director である Peter Hendriks 氏との間で、JSDT の新規公式欧文誌創刊に関する契約が締結された。

4-4 新規欧文誌雑誌名の決定

出版請負は BMC 社に決まった。これですぐ雑誌創刊可能と思っていたところ、多くの雑誌は契約から創刊まで 2 年以上かかっていることがわかった。種々雑多な予想もしていなかった途方もない作業が待っていたが、当初は甘く考えていたので、頑張れば半年後位からは論文受付ができドンドンと投稿され掲載されるものと考えていた。後にこれがとんでもない間違いであったことは、嫌というほど経験する。

作業の最初は雑誌名の決定である。学会名に Dialysis Therapy が入っているという事実の一方で、世界的には Renal Replacement Therapy (RRT) という用語も使われている。新規雑誌は世界を相手にする。広く腎臓と言えは Kidney や Nephrology という言葉もある。すでに日本腎臓学会は 20 年前から CEN 誌を

育て上げていた。これらのことを鑑み以下のような最終候補を考えた。

- ① International Journal of Dialysis Therapy (IJDT)
- ② International Journal of Renal Replacement Therapy (IJRRT)

JSDT 理事会では International Journal of Dialysis Therapy (IJDT) が有力であったが、Journal of Dialysis Therapy (JDT) が最有力になり決まりかけた。この名前を、雑誌の狙うポジションである ESRD, HD, PD, 腎移植を含め、新規雑誌の BMC 社の Developing Manager である Shivani Patel 氏 (London 在住) にぶつけたところ、思いもかけない「NO」がでた。腎移植まで考えるのなら Dialysis Therapy でなく Renal Replacement Therapy がベターとの意見であり、雑誌の名前は決定的に重要と言われた。このため、International Journal of Renal Replacement Therapy (IJRRT) と Journal of Renal Replacement Therapy (JRRT) が有力候補となった。学会理事会でも透析医学会なんだから「Dialysis Therapy」にこだわるべきだとの意見も強かった。しかしながらここは我慢して、ほぼ Journal of Renal Replacement Therapy (JRRT) に決定され、ドンドンと話が進むようになった。ところがである、NO は出さないものの、最後に E-mail で「Good journal has a simple Name」とメールが来て、Nature, Science, Circulation, Cancer, Blood, Cell, Spine, Gut などの一流紙をサラリと記載していた。ここで現在の Renal Replacement Therapy (RRT) に新規雑誌をすることを決意し、JSDT 理事会に差し戻しを行った。理事会では揉めたが、最終的には当時の新田孝作理事長の裁定で RRT 誌と決まった。

出版してみて、International や Journal を省いてシンプルな雑誌名にしたことは今考えると大正解であったといえる。一度 Google や Yahoo などで検索してみるとよい。International や Journal で検索すると山のように出てくる。とても RRT 誌にはたどり着けない。しかし、Renal Replacement Therapy で検索すると、時に最初のページに登場したりして容易に RRT 誌の Home Page にたどり着ける。JSDT の HP でなく一般検索からのアプローチこそ、世界標準ということが理解できた。また雑誌名として「R」から始まる雑誌はきわめて少なく検索しやすい。Shivani 氏には感謝している。

5 新規欧文誌創刊業務の開始

5-1 査読システムと論文を掲載する Home Page の設計

Web Journal の根幹とも言える投稿および査読システムと、論文を掲載する Home Page の設計にあたり、BMC 社にはすでに確立したシステムがあり、投稿および査読システムは™Editorial Manager と自動的に決まった^{3,4)}。投稿および査読システムとしては™Scholar One と世界的には 2 分するシステムである。Home Page の設計デザインも BMC 社はきわめて厳格な統一基準を有し、それにのっとってデザインされている。これは Web 運営としてはきわめて安全かつ安定的な運営が保証される一方、各雑誌の HP に個性がないという結果となっている。

Web Site の雑誌名を決めるさいに「rrt」はすでに申請がなされており使用できないということが明らかとなった。ピンチであったが「rrtjournal」は未申請で使用可能であったため事なきを得た。最終的には RRT 誌の Home Page のアドレスは「<http://rrtjournal.biomedcentral.com>」となった。

5-2 投稿分類：Classification の決定

その後の作業こそ、Editor in Chief の当方にはきつい仕事となった。まずは投稿分類を決めることとなった。投稿された方はわかると思うが、Hemodialysis・Peritoneal Dialysis、さらには小分けの小分類がある。これは一旦出版が開始されると容易に変更ができないものであり、投稿論文の動向を把握し統計をとるのも投稿分類である。いくつかの雑誌、いくつかの学会の発表分類を参考にしたが科学的内容であり、BMC 社のサポートは期待できず、最終的には筆者が悩みに悩んで半月ほど不眠になる中で一人で決めた。その出来の評価は今後の雑誌の投稿内容で決まっていこう。心配なことである。

5-3 Editorial Member の決定

Editorial Member の決定は、膨大な困難かつ地道な作業が予想されたが自分でやる覚悟を決めた。大変ではあるが建設的な仕事でもあり良い作業であったと思っている。Associate editor は JSDT 理事を中心に選定し、Board Member は英語論文のアクティビティの高い方になんとかお願いして無理して引き受けてもらっ

た⁵⁾。本当に大変な選定作業であった。これは日本透析医学会の編集委員会委員や理事・評議員リストをおおいに活用し、ほとんどの先生から快く就任の同意を頂いたことに感謝している。

6 Renal Replacement Therapy 誌創刊後から現在まで

6-1 創刊の決定

JSDT 理事会でも「Go!」サインが出て創刊が決まった。投稿論文を募ることになったが、紙媒体の雑誌とは異なり Web Journal 特有の問題があった。まったく影も形もない雑誌、すなわち立ち上がっていない雑誌に、貴重な、しかも数居の高い英語論文を投稿してもらわなくてはならない。Home Page の表紙のみの Coming Soon の言葉と、Editorial Team (Editor in Chief, Associate Editors) リスト表と査読システムのみ雑誌、本当の雑誌かどうか、日本人には馴染みのない BMC 社からの Home Page のみの雑誌を信用してもらわなくてはならない。紙雑誌でも当然であるが、Web Journal 雑誌では投稿までのポジションを作るのはハードワークであるが、実は投稿受け付けをはじめ、きちんと査読して受諾 (Accept) した論文を揃えて創刊していくことは大変である。本誌の読者も現在では eメールで Web Journal の投稿依頼の招待メールを日々山のように受けていると想像する。かく言う私も日々 Invitation Letter がやってくる。これは逆に言うと、それだけ立ち上がり直後の Web Journal は実際の創刊は困難であることを意味する。

現在、雨後の竹の子のように新しい Web Journal が創刊準備または創刊されるが、数年余にわたり順調に投稿数を獲得し PubMed や MEDLINE などへ Index 化される雑誌はほんの一握りである。多くは半年から一年で廃刊もしくは影も形もなくなるのである。筆者も Editor in Chief として新規雑誌の立ち上げ作業に従事する前には、ほとんどの雑誌が自動的に PubMed や MEDLINE に収録されるものと思っていた。それは大きく事実とは異なり、厳しい審査と運が必要である。この新規の雑誌の成功は、最強の医学・生物系の出版社である Springer-Nature-BioMed Central 社からの準備であっても例外ではない。JSDT の Renal Replacement Therapy 誌と同時期に立ち上がった雑誌のなかにも、すでに廃刊になった雑誌を複数知っている。しかも雑誌の創刊予定は 5 本のアクセプト論文と六つ

の審査中論文ありという厳しい条件となった。

6-2 Renal Replacement Therapy (RRT) 誌の創刊

5 本のアクセプト論文と六つの審査中論文 (11 本以上の投稿が最低) 条件をクリアし Home Page の準備が BMC 社で整うまで、このまま廃刊になるのではないかという懸念に苦しめられ胃が痛くなり眠れない日々が続いたが、晴れて 2015 年 11 月 24 日について RRT 誌は、これまでの雑誌とは異なりインターネット空間で Web Journal として創刊された。

2015 年 6 月 10 日から新規の論文投稿を開始し、条件クリアに半年近くを要した。初日に以下の 4 本の Article で創刊された。最初は新規雑誌の創刊に向けた考えの表明で、Editor in Chief の私が書いた (実はそれを Shivani Patel 氏が添削してくれた)¹⁾。残りの 3 論文の著者の方々には、この場を借りて感謝申し上げたい。このうち、坂本香織先生 (女子栄養大学臨床栄養療法学研究室) が書いた貴重な研究論文があり、ありがたいことに編集委員会とはまったく別の学術委員会で評価され、2016 年度の日本透析医学会の学術賞である木本賞を受ける、という雑誌にとっても名誉なうれしいことがあった。今後も雑誌の成長とともに、同様の事例が続くことを願わずにはいられない。

すでに RRT 誌は創刊から 1 年半以上が経過した。ありがたいことに、投稿受け付けから 2017 年 5 月までに投稿がゼロであった月はないほど順調に投稿があった。これに呼応して出版がゼロであった月もないほど順調に出版が続いている。

6-3 Case Report の採択の是非

Case Report は臨床医学においては、科学的な思考を養うのにきわめて重要であり、将来の重大な発見に繋がる可能性もゼロではない。しかしながら、多くの一流雑誌では Open Journal 化されない、引用がされないことから Case Report を掲載論文から締め出す傾向がある。一般社団法人日本腎臓学会の Clin. Experimental Nephrology (CEN) も、症例報告は受け付けず CEN Case Reports という別雑誌にしている。

RRT 誌の立ち上げにさいして、将来の Impact Factor 獲得を目指して Case Report は受け付けないのによいのではないかという意見は、日本透析医学会の理事会や編集委員会内にも存在した。しかし、多くの症

例報告は若い臨床医の最初を書く英語論文のことも多く、「若い臨床医にとって科学への登竜門となっていることは十分に考えられる」という Editor in Chief を拝命した当方の考えに多くの賛同を得て、創刊から現在でももちろん Case Report を受け付けている。ただしそこには単に報告だけでなく文献的な考察も十分にすべきであるという、論文の高度化の方策も盛り込んでいる^{※6)}。

7 RRT 誌の今後と将来展望

7-1 Open Journal の光と影

Open Journal 化は一見すると著作権は著者であり、多くは図表の再利用もしやすいように設計されてきている。しかしながら、著者が負担する金額は多くは 25 万円前後となることが多く、筆者も 30 万円の負担を強いられたことがある。これでは科学的な研究成果を広く世界に発信するという科学の目的には逆行する動きである。ましてや研究者たる著者にとっては自己の研究成果の世界的な拡散を阻害する要因となる。

このため多くの Open Journal 化された論文は、新しく開発や発売された薬物療法や特許絡みの論文がどうしても多くなってくる。これは論文の対価という観点からは当然かもしれないが、息の長い研究やすぐには金銭効果に結びつかないような基礎研究にはそぐわないシステムとなっている。Impact Factor の高い Top Journal ならある程度は金銭的負担は容認できようが、それ以下の雑誌（しかしながら論文の大半はこうした雑誌に掲載されているものである。）や、研究成果がいわゆる Negative Study として、やってみたけれど統計学的に有意差はなく一定の結論が得られなかった論文などは日の目を見ないことになる。

7-2 RRT 誌の現況

2015 年中に 45 編の論文投稿があり、特に 2015 年 9 月には実に 14 篇もの投稿があった。これはまだ創刊前のことであり、いかに多くの先生方の支援があったかを痛感し、この場を借りて御礼申し上げる。2016 年はさらに投稿は進み、一度たりとも投稿ゼロの月は経験していない。2016 年には 85 篇もの投稿があり、これはすでに毎週以上のハイペースで、名もない新参者のこれまで余りなかった Web Journal の形式での雑誌に支援と関心が注がれたことを示している。この勢

いは 2017 年にも引き継がれるている。

2015 年に Editor in Chief の EDITORIAL を除けば 44 編の投稿があり、Accept 率 88.9% で 8 編を、2016 年には学会の Position Statement 論文を含め 85 編の投稿があり Accept 率 87.9% で 72 編の論文を出版した。ここで注意してほしいのは、投稿日と Accept 受諾日にはズレが生じることである。これはもちろん査読という論文審査の時間が挟まるためである。現在では断続的に投稿と査読、その後の出版が軌道に乗ってきたので、投稿受理数×アクセプト受諾率と出版数のズレは小さくなってきているが、あくまでも時間的ズレは存在する。

投稿からアクセプト受諾までの期間と出版までの期間は、各論文の出版ページからタイトルの下に三つの日付を並べて記載してあり確認できる。Received : 23 July 2016 · Accepted : 8 December 2016 · Published : 30 January 2017 などのような記載である。これは投稿受け付け日が 2016/7/23 であり、アクセプト受諾日が 2016/12/8 で、実際の出版日は 2017/1/30 ということを意味している。この三つの数字の差を短縮することが雑誌の発展には重要である。RRT 誌においては、アクセプト受諾から出版日までの期間の短縮に邁進しており、最近ではきわめて安定した比較的短い期間を達成しつつある。今後はアクセプト受諾から出版日までを 1 カ月以内を実現するように、BMC 社における Production Team と協議を続けている。

とはいえとも査読審査をいい加減にすることは本末転倒である。良い査読結果をいかに迅速に得るかということが重要である。言い換えれば、今後は投稿論文の Handling Editor としての機能を受け持つ Associate Editor と、査読を中心的に受け持つ Editorial Board Member の、一定数以上の確保と質を担保するための育成が重要となる。筆者は Editor in Chief としてすべき作業は大半を 24 時間以内にすませることを目標にしている。しかしながら、作業は果てしなく押し寄せてくるうえに、細かい問い合わせやクレーム・高圧的、脅迫的な依頼から哀願風の依頼までやってきて対応せざるをえず、一日に何回となく Editor in Chief 作業の有無の確認を行う必要がある。したがって 2017 年 5 月の段階では、毎日 1~2 時間の RRT 誌作業を行う日課になっている。なかなか辛いこともあるが、建設的な仕事でありやりがいはある。

RRT 誌の特徴であるカラー図版や動画出版もすでに行われ、特にトラブルもなく出版されている。Full Paper の PDF ファイルのダウンロードもすべての出版論文で可能で、特に問題は生じていない。また eBook にも対応する ePub 形式でのダウンロードも可能である。これにより Apple 社の iPhone や iPad はもとより、ほとんどの携帯電話などでも発表論文の閲覧が可能となっている。

7-3 日本透析医学会から日本全体へ

RRT 誌は御存知の通り日本透析医学会の公式欧文誌である。しかしながら、広義に考えると、Renal Replacement Therapy (RRT: 腎代替療法) の周辺領域が存在する。血液透析 (人工透析) のみならず腹膜透析療法もある。さらには再生医療で腎臓を構築することは究極の腎代替療法でもある。また急性腎障害 (AKI) に対する持続的血液浄化療法も腎代替療法であ

る。さらには慢性腎臓病 (CKD) や透析コンソール・透析液の清浄化・人工透析器の膜素材など、臨床工学の分野も腎代替療法に強く関連する領域である。これらの周辺領域には個々に独立して活動している学会も少なくない。このため RRT 誌は他学会との連携を目指して投稿論文数を増加させ、ガイドラインやレジストレーションデータなどの学会報告などを Position Statement 論文として掲載し、将来の引用件数を増加させたいとの思惑があった。この結果、日本臨床腎移植学会・日本腹膜透析医学会・日本急性血液浄化学会の各学会から Official Journal として、RRT 誌が採用された。RRT 誌は 4 学会の公式欧文誌となり今後のさらなる発展を目指している。Home Page 上でもこの 4 学会のアウトラインや総会開催情報などをすでに掲載している (図 1)。

新規英文誌の立ち上げには膨大な時間と労力ならびに費用がかかることは紛れもない事実である。RRT

[B] Society affiliations


Renal Replacement Therapy is the official publication of the following societies:

- [Japanese Society for Dialysis Therapy \(JSDT\)](#)
- [Japanese Society for Clinical Renal Transplantation \(JSCRT\)](#)
- [Japanese Society for Peritoneal Dialysis \(JSPD\)](#)
- [Japan Society for Blood Purification in Critical Care \(JSBPCC\)](#)

[Japanese Society for Dialysis Therapy \(JSDT\)](#)




Founded in 1968, the JSDT has over 16,000 members and is one of the largest societies in Japan. The JSDT promote advances in technology, research and the dissemination of knowledge related to renal replacement medicine. Japan remains a leader in renal replacement therapy including dialysis therapy, and the JSDT play a significant role in proposing clinical guidelines to improve the life prognosis and QOL of CKD patients.




The Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT) was founded in 1969 on the vision of promoting the advancement of the science and practice of renal transplantation. JSCRT has expanded to include nearly 1,500 renal transplant professionals, including surgeons, physicians, pediatricians, nurses, coordinators, social workers, pharmacists, and dietitians. JSCRT is also dedicated to educating renal transplant professionals, to promoting research, and to advocating the highest quality care for patients.

[Japanese Society for Peritoneal Dialysis \(JSPD\)](#)



The Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD) aims to contribute to the advancement of medicine and medical practice, the development of academic culture and people's welfare through implementing programs for advancement, development and propagation of medical practice and research regarding renal failure and peritoneal dialysis therapies for people all over Japan. JSPD was established in 1995, and has currently 1,500 members.

[Japan Society for Blood Purification in Critical Care \(JSBPCC\)](#)



The Japan Society for Blood Purification in Critical Care was founded in 1990 and aims to further the development and establishment of acute blood purification, such as continuous renal replacement therapy (CRRT). JSBPCC comprises nephrologists, emergency/critical care physicians, as well as clinical engineers and nurses mainly working in intensive care units (ICU). JSBPCC is dedicated to the development of safe and effective blood purification therapy for saving the lives of critically ill patients.

図 1 Renal Replacement Therapy 誌を公式誌とする学会

誌は4学会の公式雑誌になりステータスがあがり、将来的には投稿も引用も増えることが期待できる。RRT誌が日本透析医学会から日本全体へとひろがる基礎となることは確実である。つい先日、日本腎臓リハビリテーション学会がRRT誌を公式雑誌とすることが決まり、作業が開始された。今後もさらに他の2~3の学会が加わる可能性もゼロではないが、現在までに決まった組織はない。

7-4 日本から世界へ

透析療法の領域においては、わが国は世界的に高い評価を受けている。しかし治療内容・臨床成績が正当に評価されているかという点においてはまだまだ満足すべきレベルではない。日本透析医学会学術集会は4,000演題内外の演題が発表される、内容的にも優れた演題が多数存在するが、透析の現場の地道な臨床成績が英語論文文化されることは少ない。動物実験やビッグデータを利用した疫学研究は多く報告されている。透析の現場からの症例報告や臨床研究は学会発表にとどまるものが大半であり、論文文化されるにしても日本語での論文にとどまっていることが多い。日本透析医学会雑誌である和文誌もJ-Stageで世界に発信しているが²⁾、世界標準語である英語で世界に発信することが重要となる。

この意味では英語雑誌は重要で、世界中からダウンロードに制限があり有料であってはダメである。筆者も論文のHome Pageにアクセスすると\$35支払いなさいとのコメントで、ダウンロードを辞めたことは多数経験している。また紙ベースの出版費用はうなぎ登りであるばかりでなく、すでに目次で論文を検索することは稀で、今はインターネットを使ったKey Words検索が中心であることは紛れもない事実である。そのうちでもPubMed, Medline, Google Scholar, Scopus, Citation Index Advancedなどはよく使用されるものである。すでにRRT誌はSpringer-Nature-BMC社から出版しているため、創刊時からSpringer Openには収録されている。すでにGoogle Scholar検索には採用された。次には検索システムのメインのPubMedをまずは目標にしている。

PubMed CentralではScientific ReviewとTechnological Reviewの2段階の審査がある。最近では多くの雑誌が申請を行っているため、従来と異なり採択率

は低下し厳格化している。日本から世界を目指すには、出版費用をWeb journalで押さえつつ(その分、一定の費用で多数の論文を掲載できる)、Index検索ができるようにしていくことが王道と思われる。この道をひたすら目指すことが次の目標である。その先にはImpact Factorの獲得をめざす必要があるだろう。

8 おわりに

RRT誌は幸い順調に途切れることなく出版を続けている。掲載論文に優れた論文もある。多くの方々から期待を込めて、「もうすぐPubMed centralに収録ですね」「Medlineに早く収録してもらって、Impact Factorを早く取ってください」とコメントを頂く。まだPubMedやMEDLINEでのIndex化には収録されず、Impact Factorも影も形もない。あたかもEditor in Chiefである当方の怠慢のようにも見えるのは仕方がないかもしれない。しかしながら、公式欧文誌を立ち上げるのは大変なことであり、多くの日本の学会が公式欧文誌は持っていない。

1968年に設立された日本透析医学会でも、独自の英文誌であるRRT誌を立ち上げたのは2015年の終わりである。実に47年目である。Impact Factor獲得はまだまだ見えない目標に近い。日本腎臓学会は1959年に立ち上がったから、CEN誌を立ち上げたのは幾多の試みの後に1997年であり、本年は21年目に当たる。英文誌を立ち上げること・持続することの困難さが忍ばれる。ましてや最近の雑誌の創刊ラッシュをみていただければわかるだろう。それだけ競争相手が増えたことを意味する。腎臓領域でTop JournalのKidney Internationalは実に91巻めである。JASNでも28年目であり、NDTも32巻を数えている。RRT誌は創刊1年半であり、まだ3巻が始まったところである。PubMedやMEDLINEに収録されることや、さらにはImpact Factorを獲得することが新規雑誌にとってはいかに大変なことか理解してほしい。是非とも科学的に優れた論文の投稿とともに、洗練された英語で記載する必要がある。是非とも皆様のご協力をお願いしたい。

幸いなことにRRT誌は学会創設後の47年目にしてようやく立ち上がった。しかしながらEditor in Chiefでもある小生にとっては、仕事のタフさよりもジリ貧かつ廃刊の恐怖と戦う心理的圧迫こそが最大のストレ

スである。タフさと熟練とボランティア精神がないとできない仕事である。そのためか、多くの良い雑誌は献身的かつ情熱的な歴史的 Editor in Chief を有しており、長く卓越した仕事のもとで発展してきた。最後にもっとも RRT 誌の発展に Editor in Chief として心がけていることは、フェアさ (Fairness) である。これがあれば誇りを維持できる。

参考 URL

- ‡1) Shigematsu T 「Introducing “Renal Replacement Therapy” : a new global perspective. Ren Replace Ther 2015, 1 : 2, DOI : 10.1186/s41100-015-0003-1」 <https://rrtjournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41100-015-0003-1> (2017/6/3)
- ‡2) 「日本透析医学会雑誌」 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsdt-char/ja/> (2017/6/3)
- ‡3) 「Creative Commons: CC-BY」 <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.en> (2017/6/3)
- ‡4) 「TMEditorial Manager」 <http://www.editorialmanager.jp/intro/Editorial-Manager> (2017/6/3)
- ‡5) 「Editorial Board in RRT journal」 <https://rrtjournal.biomedcentral.com/about/editorial-board> (2017/6/3)
- ‡6) 「SUBMISSION GUIDELINES in RRT journal : Case Reports」 <https://rrtjournal.biomedcentral.com/submission-guidelines/preparing-your-manuscript/case-report> (2017/6/3)